

『かたらい広場』

日 時 平成 26 年 5 月 19 日 (月)
午前 10 時～午前 11 時

会 場 龍ヶ崎市役所市長室

団体名 龍ヶ崎市自治政策研究会 (7 名)

市 中山市長 松尾総合政策部長
企画課 宮川企画課長 由利課長補佐 廣田主査
市長公室 松田室長 大久保室長補佐 佐々木課長補佐

【主な意見の要旨】

○団体

- ・地方分権一括法の施行が分岐点にある。
- ・市民の意見が市政に反映されることが必要で、市民の市政参加についての考え方を聞きたい。
- ・これまでの行政は、上意下達の感があった。これからは、市民が自治の主権者として、本来の住民自治の原則を省みる必要がある。
- ・これからは、市民と行政とのそれぞれのあり方、市民の市政への参画意識の醸成、市民との連携（協力）を進めていくことが必要であり、市民がどう関わっていかかが重要である。
- ・これまでの市民は市政に対して無関心で、市民は一方的に要求するだけであった。
- ・市民は、行政に自治の一部を信託している。このため、市民は市政に参加することが必要である。
- ・地方行政は、行政に求められる市民ニーズや近年の社会情勢の変化を受けて、柔軟に変えていくことが必要だ。
- ・自治基本条例をきっかけとして市民と行政の意識を変革する必要がある。
- ・自治基本条例の策定にあたり、市民からの意見の吸い上げが不足している。
- ・専門的な知見を取り入れ、時間をかけて自治基本条例の策定を進めることが必要である。
- ・自治基本条例を作った後に、市民にどのように説明し理解をしてもらうのか。
- ・市政の評価、反省によって、今後、市が目指していくものがベースとなって進んでいかなければ施策が浮いてしまう。
- ・自治基本条例の策定には、もっと市民を巻き込んでいくことが必要である。
- ・素案の段階から、もっと市民と中身を議論して欲しかった。
- ・自治基本条例は、100%全ての人々が納得できるように作って欲しい。
- ・条例制定に向け、目標となる期限は必要であると思うが、時間をかけてじっくりと問題の整理をして欲しい。

- ・自治基本条例をつくる目的が曖昧である。
- ・自治基本条例を作ったということは、何か市が行いたいことへの布石となるのか。
- ・自治基本条例で示されている協働の概念、イメージはどのようなものか。
- ・議会は、市民との思いにギャップがある。
- ・行政は、市民の多様な意見を聞く必要がある。
- ・民間のノウハウについて勉強し、市政運営に積極的に取り入れるべきだ。
- ・市民のアイディアに耳を傾け、積極的に利用すべきである。
- ・今進められている中核的な地域コミュニティは、器だけを作ったかたちになっており、その原因は、多くの市民が中身を理解していないことである。
- ・自治基本条例は、他市の先例となるすばらしいものを作ってもらいたい。

○市長

- ・時間には、あまりこだわらず、じっくりと進めてきたと考えている。
- ・当初の計画から、6ヶ月遅らせている。
- ・私は、自治基本条例は、地方分権一括法が制定された時点で、定められるべきものと考えていた。
- ・市民、議会、市の連携は時代の要請となっている。
- ・自治基本条例においては、議会で制定を進めている議会基本条例と棲み分けを考えることが必要と考えている。
- ・検討委員会の委員については、住民基本台帳から無作為抽出し、普段ご意見をいただいていないような人も含まれるよう配慮しており、新鮮なご意見等がいただけたと思う。
- ・この間、全体骨子や条例素案に対する市民との意見交換会等を行いながら作業を進めてきている。
- ・地域の課題は、地域で整理をしていくものと考えている。
- ・これまでの自治会の単位では、地域の課題を整理するには小さすぎると考えていることから、地域のコミュニティセンターを単位として考えた。

○団体

- ・コミュニティセンター長の役割が、大きくなっている。
- ・給料の必要性について議論が必要だ。
- ・コミュニティセンター長の役割と給料については、今後検討する必要がある。
- ・市の職員の天下り先となっていないのか、疑念を抱いている。

○市長

- ・コミュニティセンター長の役割として、事務局としての役割も+担っていることから、かなりの負担を強いている。
- ・地域によっては、負担が大きすぎるとの意見が出されており、今後検

討していきたい。

○団体

- ・市民が、市政に参加するための仕組みを検討願いたい。
- ・「市民参加条例」をつくるべきではないかと考えており、そのときは、私達も協力していきたい。
- ・市長の私的な懇談会を作るのも良いと考えている。
- ・地域では、高齢化が進んでいる。
- ・地域の役員は順番制となっており、必ずしもやる気のある人がやっておらず、地域が停滞することを不安に考えている。
- ・高齢化の状況も踏まえ、ボランティアなどが地域を支えていく必要があり、地域を支えるためのボランティアについて考えて欲しい。

終了